

じゅしゅう

第11号
(通算351号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

令和二年二月九日、初めての企画「仏教文化講演会」を開催しました。普段のご法要では仏さまのお話を聴聞させていただきませんが、これからは色々な情報をお届けしたいと思い、弁護士藤田翔一先生をお招きして、「終活について」というテーマでご講演をいただきました。ここで全てをお伝えすることはできませんが、いくつかご紹介をしたいと思います。

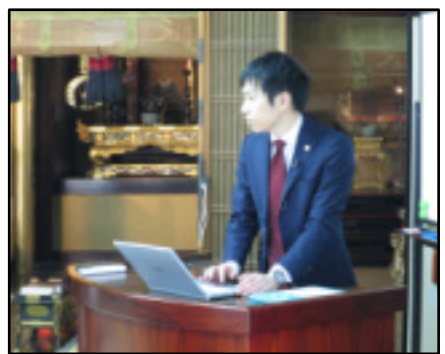
第1回 浄覚寺 仏教文化講演会

最近「終活」や「エンディングノート」という言葉がよく使われるようになってきました。遺言を残していく中でも、このエンディングノートがとても重要であると教えていただきました。自分に万一の時（亡くなることだけでなく、自分で判断ができなくなることも含めて）どうしたいのかを書いておくこと、特に葬儀に関する内容は、遺書の中に書いてしまうと開封するには裁判所で検認の手続きが必要なので、すぐには見られないということでした。

また、相続に関しては、どこにどんな財産があるのかということも明らかにしておくこと。もしくは、それと同じくらい重要なことは、無いときには無いということを伝えておくこともとても大事なことで、さうです。あるはずだからと探すのよりも、有るのか無いのかわからず探すことは大変ですから。

ちなみに、自筆証書遺言の必要要件は、自筆・日付・署名捺印の三点。遺言書が無くても相続人の中で話し合っただけで決められれば問題はありませんが、配分を決めておきたい場合、相続人以外や寄付をした場合などは遺言書が必要となります。もちろん遺言書があることも伝えておかななくてはなりません。そして、細かなことはエンディングノートに記録しておくことで安心できることでした。

この度は法律の話は聞かせていただきましたが、一方でお寺からのメッセージは「方一」とは言うものの、いつかはわからないが必ず死はおとずれれるもの。今、自分が亡くなったらどうしたいか、どうしてほしいかを伝え、話し合っておくことが、先に逝く者も、残される者も安心ができるということ。また、仏さまに手を合わせるといふ心も相続してほしいとお伝えさせていただきました。



安心を

相続せられて

たふとくなる一念の

こころのほろを

「憶念の心」にとも

「仏恩報謝」とも

いふなり

御文章に聞く(第9回)

仏教語辞典



アシヨーカー

マメ科の植物。夢憂樹ともい
う。お釈迦さまの母であるマ
ヤ夫人が出産のために帰郷する
途中に立ち寄ったルンビニの花
園で綺麗に咲くアシヨーカーの花
に右手を伸ばしたときに右脇か
らお釈迦さまが生まれたといわ
れている。

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストと
わかりやすい言葉で読み解かれてい
ます。ぜひお買い求めください。

狛すなごり章(一帖第三通)

まず、当流の安心のおもむきは、あ
ながちにわがころのわろきをも
また、妄念妄執のころのおこるを
も・とどめよというにもあらず、た
だあきないをもし奉公をもせよ・狛
すなごりをもせよ、

今回も御文章(蓮如上人からのお手
紙)を味わっていきたいと思います。
今月から二通目の「狛すなごり章」
のお話を始めたいと思います。

このお手紙は一帖目の第三通に分類
されます。(先月までの聖人一流章は
五帖第十通でした)第五帖は日付のわ
からないものが集められています、
第一〜四帖は年代順に撰ばれています
ので、一帖目の第三通ということは、

御文章としては初期のものとなります。
文末に不読ではありますが、文明三年
十二月十八日とあります。一四七一年、
蓮如上人五十六歳の時です。

まずは大意をお伝えしましょう。
「浄土真宗の意は、必ずしも悪心や妄
念、妄執をとどめよというものではあ
りません。なぜならば、商売をしたり、
主人に仕えたり、狩猟や漁業などの、
さまざまな職業をもつて生活する私た
ちだからです。」

本文にある「安心」とは信心の異名
です。蓮如上人は、安心を「やすきこ
ころ」と読み、他力の信心の取りやす
く、得やすいことをあらわす言葉であ
ると言われています。

次回は妄念妄執の心をお話ししてい
こうと思います。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届け致します。
全国、いや世界中で新型コロナウイルスの感
染が広がっております。治療のための薬はまだ
無い状態で、なんとか拡大防止のために学校が
休みになったり、色々な行事が中止となつてお
ります。当山も総代さまと相談する中で、「無
理をすることはない」という言葉をいただき、
お彼岸の法要を中止することとなりました。昨
年の盂蘭盆会に引き続き、法要の中止判断をす
ることは断腸の思いですが、皆さまの健康を第
一に考えました。ご理解を賜れば幸いです。
四月の報恩講で、皆さまとお会いできること
を楽しみにしております。
(釋法道)

行事案内

三月二十日(祝) 十四時
予定しておりました春季彼岸会は、新型コロナ
ウィルスの感染拡大防止のため、残念ながら
中止とすることに致しました。予定されて
いました皆さまには大変申し訳ありませんが、
何卒ご理解をいただきますよう、お願い申し
上げます。



報恩講法要

日時 四月十八日(土) 十四時・十九時
十九日(日) 十四時のみ
講師 十八日・中西昌弘先生
十九日・喜多唯信先生